

## 平成28年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、志を持ち、夢や希望を追求し真に生きる力を持った生徒を育む学校をめざす

- (1) 進路を自己決定できる力と進路を実現できる学力を身につけ、自分の人生を切り拓く力を持った生徒を育てる
- (2) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表明できる生徒を育てる
- (3) 校訓である「自他敬愛」の心を育むと共に、自律的な生徒を育てる
- (4) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、リーダーシップを発揮できる生徒を育てる
- (5) これからの国際社会で通用する人材として、伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重することができる生徒を育てる

## 2 中期的目標

## 1 学力・創造力・徳力を兼ね備えた、社会に有用な人材の育成

(1) 特色ある教育課程を編成し、生徒の学習意欲を向上

ア 将来の仕事能力の基礎となる「学力」を鍛え、自らの人生を開拓し、社会に貢献出来る人材を育成する。

※ 「看護医療」専門コースの生徒に対して、看護師体験及び保育体験などの体験学習を実施する。

イ 進路行事を積極的に展開し、進路に関する意識向上と日々の学習意欲向上をめざす。

※ 学校教育自己診断における「進路行事が進路決定に役立つ」肯定率（平成26年度59%、平成27年度71%）を平成30年度には75%を達成する。

ウ 学校における教育活動のあらゆる面で、生徒の言語活動の充実を図る。

※ ICT活用及び協働学習（ペアワークやグループワーク）を通して、プレゼンテーション力と相互批評できる力を高める。

※ 学校教育自己診断における「ICT機器活用の取り組み」肯定率（平成26年度69%、平成27年度86%）を平成30年度には90%を達成する。

エ 使える英語プロジェクトにおける実践をもとに、英語におけるコミュニケーション能力を向上させる。

※ 「読み・書き・聴く・話す」の4領域の中でも、早い段階から、スピーキングの学習に、NETの活用を推進する。

(2) 生徒が「わかる授業」として、満足度の高い「充実した授業」に向けた授業改善

ア 学校教育自己診断や生徒の授業アンケートを参考に授業改善を図る。

イ 校内外の優れた実践事例の研修を通し、指導法を研究し、共有を行う。

ウ 公開研究授業の実施を推進する。

※ 学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」肯定率（平成26年度49%、平成27年度58%）を平成30年度には60%を達成する。

(3) 個別指導の充実と自己学習の支援

ア 支援の必要な生徒実態を把握し、教職員の共通理解を促進し、支援の充実を図る。

イ 進学を意識した講習を実施し、自学自習のための支援体制を整備する。

ウ 外部模試利用の効果的な活用を推進する。

※ 学校教育自己診断における「進路決定の際の情報提供」肯定率（平成26年度78%、平成27年度82%）を平成30年度には85%を達成する。

## 2 自主・自律・礼節を重んじる生徒の育成

(1) 規範意識の向上（善悪の判断ができる人材及び感謝報恩の心をもった人材を育成）

ア 毎朝の立ち番指導及び通学指導を継続し、通学マナーの向上を図る。

イ 毎朝の立ち番指導に合わせてあいさつ運動を実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。

ウ 頭髪・服装・遅刻指導を推進する。

エ 急速に普及しているスマートフォンなどのSNS上の人権侵害防止についての取り組みを推進する。

※ 学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導」肯定率（平成26年度75%、平成27年度77%）を平成30年度には80%を達成する。

(2) 自主的活動ができる生徒集団の育成

ア 生徒会行事・生徒会活動・部活動を一層活性化させる。

※ 部活動加入率（平成26年度52%、平成27年度47%）を平成30年度には60%を達成する。

イ 「学校まるごと美術館」構想の下、生徒による演技・演奏の発表や芸術作品の発表の機会を増やすことにより、文化・芸術の振興を図る。

ウ 図書館利用・読書活動の充実を推進する。

エ 生徒による校内外の美化活動を推進する。

※ 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援していく。

## 3 ICT機器の活用

(1) ICT機器を活用して校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保

ア ICT教育推進室の設置（新分掌として位置づけ）

イ 校務支援システムのサポート、HP更新（ブログ更新）のサポート、各種トラブルの対応、機器の管理。

(2) ICT機器を活用した授業の実施を推進

イ タブレット型PCや電子黒板機能付き短焦点プロジェクターを活用する。

エ 全ての教科で手軽にICT機器を利用した授業ができる環境の整備と教職員の能力向上を図る。

※ 「情報デザイン」コースにおいて、21世紀型スキルの育成をめざしたタブレットの活用を推進する。

(3) 「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」（パナソニック教育財団特別研究指定校）の調査研究を行う。

ア 多様な学習成果の評価手法に関する調査研究を行う。

## 4 信頼される学校づくり

(1) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校

ア 学校説明会を積極的に実施し、本校の特色ある取り組みをアピールする。

イ ブログを活用して、最新の学校情報を発信する。

ウ 学校メールマガジン（モズマガ）の利用拡大を図る。

※ 学校教育自己診断による「ホームページは充実している」肯定率（平成26年度79%、平成27年度82%）を平成30年度には85%を達成する。

※ 学校教育自己診断による「メールマガジンは役に立っている」肯定率（平成26年度93%、平成27年度91%）を平成30年度には90%以上を維持する。

(2) 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校

ア 「子育てひろば、東もず」との連携を一層進める。

イ 堺市、地域自治会、地域小学校・中学校・大学との連携を進める。

※ フューチャールームを活用して地域との交流を進め、文化発信の場となる。

## 5 伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重する精神の育成。＜「サカイ」から「セカイ」へ＞

(1) 「自他敬愛（自らに誇りを持ち、自らを大切にす。他者を尊重し、他者を思いやる）」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。

ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築くことで、より「自他敬愛」の精神を育てる。

イ 「ピア・サポート」活動を一層、拡大充実させる。

(2) 地域の課題を国際的な課題として捉えることのできる視点を持つ。

ア ICT機器を活用した問題解決能力育成の取り組みを推進する。

イ アクティブラーニングの評価方法について、「e-Portfolio」等を導入し検討する。

(3) 「サカイからセカイへ」をキーワードに「国際都市・堺」の在り方について、提言をまとめ、アジア諸国へ発信していく。

ア 他者を尊重する国際理解教育への取り組みを推進する。

イ 「総合的な学習の時間」を用いて「Aria Studies (AS)」を実施する

※ いかなる時も「出来ない理由」を考えるのではなく、「出来る方法」を考えて道を切り拓き、世の中に新しい価値を生み出せる人材の育成。

※ 人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど、感性を高める指導を行う。

※ 学校教育自己診断による「この学校は特色がある」肯定率（平成26年度55%、平成27年度64%）を平成30年度には70%を達成する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【はじめに】</p> <p>○ 本校は、パナソニック教育財団特別研究指定校に選ばれ、H27・H28の2年間にかけて「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価～1人1台のタブレット端末によるe-Portfolio活用～」の研究に取り組んできた。</p> <p>【上半期研究成果報告会 (H28. 2. 12)】</p> <p>○ 研究成果報告会を実施するにあたり、1年目の目標である「ICTを活用したALの実施」を念頭におき、トータルプラン委員会にて、「今後、本校のめざす学校像について一チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」を教職員全員が共有できるように議論を重ねた結果、本校独自の「アクティブ・ラーニング (AL) の定義」を定めた。</p> <p>○ 定義の中でも、特に「考える・まとめる・発表する」という過程を大切に、目標を具現化するために、カリキュラムのPDCA、単元や各授業のPDCAのサイクルを取り入れることにした。</p> <p>○ 研究成果報告会では、「英語・理科・情報・数学」の4教科が公開授業を行い、その後府内外から50名の参加者を得て授業検討会を行った。</p> <p>【下半期研究成果報告会 (H29. 1. 18)】</p> <p>○ 下半期研究成果発表会では、「1人1台のタブレット端末によるe-Portfolio活用」に重点を置き、ループリックを活用した評価の在り方を検討し、それらの学習経過等をe-Portfolioを活用して、生徒のスマホを利用し蓄積していく方法を実践発表したところである。</p> <p>○ その際、下半期報告会での見どころは、次の3点に絞った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「授業の最初にめあてをしめす (プロジェクター活用)」</li> <li>② 「生徒の発話場面をつくる (思考を伴う議論・発表・記述などの言語活動)」</li> <li>③ 「授業の最後にQRコードを読み取らせ、めあての達成度、感想を書き込ませる (生徒のモバイルデバイス活用)」</li> </ol> <p>○ 府内外を問わず、多くの方に関心を持って頂き、ご参加いただいたことは喜びに堪えない。また今回のように、大阪府教育庁・教育センターからも幹部職員をはじめ多くの指導主事が、一つの学校の公開研究授業に視察に来られたことは今まで前例がない。</p> <p>○ 「府立高校初！授業でスマホ！」という案内のタイトルの波及効果は大なるものがあつた。</p> <p>○ 「主体的・対話的な深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組み、「英語・数学・国語・理科・社会・家庭・情報」の16教科・科目が公開授業を実施し、その後、府内外から96名の参加者を得て、ICTを活用したALなど授業改善についての協議を行った。</p> <p>○ H27.9月以降、先生方の75%がプロジェクターを活用し、H28.10月の調査では、12ポイントアップの87%がプロジェクターを活用している結果が出たように、ICT機器の利用回数が大幅に増加した。</p> <p>○ 日本教育工学協会 (J A E T) より「2015 学校情報化優良校」に認定。</p> <p>○ 今後も、教育のICT機器情報活用化をより一層推進し、日本教育工学協会の「学校情報化先進校」をめざしていきたいと考えている。</p> <p>◇ 学校保健会の定期態開催や、学校歯科医や歯科衛生士による「歯磨き指導」により、「口腔保健教育ならびに口腔保健管理の優良校」に認定された。(H28.12)</p> <p>【学校教育自己診断の結果と分析】については次の通りである。</p> <p>○ &lt;生徒向けアンケート&gt;生徒の肯定意見が「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータ・プロジェクターなどのICT機器の活用に取り組んでいる」では、(H27:86%⇒H28:84%)で高い水準を示している。「授業内容をわかりやすく工夫している」では、(H27:60%⇒H28:57%)の横ばい。</p> <p>○ プラスポイントとしては、「先生は生徒の努力を正しく評価している」が、昨年比19ポイントアップの82%となっている。これは、授業の「めあて」や「振り返り」を示すことによって、自己評価と他者評価の整合性を増したためと思われる。</p> <p>○ また、マイナスポイントとしては、「進路に適応した選択科目がある」では、昨年比19ポイントダウンの65%となった。これは、多様な進路選択に対してミスマッチ現象が起こっていると考えられ、科目選択の際に、更なる丁寧な説明の必要がある。</p> <p>○ 平成29年度「指示事項の取り組みの重点」の中に、『【情報リテラシーの育成】ネットワーク上で有害情報等が発信されている現状を踏まえ、児童・生徒のインターネットや携帯電話等の活用状況に応じて、情報の取り扱いについての基礎的な資質能力を育成する必要がある。</p>	<p>【第1回 (6/20月)】</p> <p>○ 下支えの柱としての生徒指導部と進路指導部、成長の柱としての部活動、学校祭、総合的な学習の時間(グローバルスタディ)、最先端の教育を開拓する柱としてのICT、アクティブ・ラーニング、地域連携(安全・交流)を進める柱としての安全教育、国際交流の4柱の取り組みから成る学校という印象があります。</p> <p>○ 今後はICTを使用してアクティブ・ラーニングを進め、総合的な学習の時間に取り入れるなど同時に行う実践をさらに推し進め、大阪府立国際交流センターで暮らす留学生を学校と地域の交流の場に招待するなど留学生が地域に入りやすくなる取り組みを考えてみてください。</p> <p>○ 働き手不足が深刻な老人ホームは多いです。社会福祉関係に興味がある生徒に仕事体験等で老人ホームを訪問する機会を与えることを考えてみてください。</p> <p>○ 東百舌鳥高校をより良くしようと先生方が懸命に取り組んでおられる様子が伝わってきます。今後は上手くいっていないことも含め、学校全体のことがよく見えるような学校アピールに努めてください。</p> <p>【第2回 (11/8火)】</p> <p>授業見学後、各資料について報告、説明。その後協議に入る。</p> <p>○ プロジェクター使用による前への投影で、板書の眠くなる時間の短縮が効果的になされています。</p> <p>○ アプリ使用による反転学習には、学校内外で生徒が取り組める利点があります。しかし、いつまでに取り組むかを指定するべきで、何時でも出来ると生徒に思わせない工夫が必要です。</p> <p>○ 教室清掃が行き届いていないのは残念でしたが、教室内で授業見学が出来た為、生徒の様子が手に取るように分かり新しい発見がありました。</p> <p>○ 我が子の授業での様子を間近でみたい保護者は多数いらっしゃいます。公開授業では教室内に入りにくい為、授業見学ツアー等を組み、多人数で授業見学が出来る仕組みを考えて頂きたいです。</p> <p>○ 学校情報化優良校を受賞されている理由がよくわかりました。授業中のスライド等、先生の熱心さが伝わり、生徒一人ひとりにとって授業がわかる学習環境等がつけられています。</p> <p>○ 「授業のめあて」は何を学ぼうとし、何をを行っているかがわかる大切な仕掛けであると思います。</p> <p>○ 授業見学ツアー等でスマートフォンを活用した授業が見学出来れば、保護者は我が子が受けている授業環境が新しい可能性を開いていることを理解でき、普段の生活で使用しているスマートフォンの学習面への使い方が実感できるのではないのでしょうか。</p> <p>○ 最先端を走ることは既存のものを変えていくことであり、付随する課題と向き合うこととなります。課題を丁寧に解決し、克服しながら新たな取り組みを推進していく必要があると思います。</p> <p>【第3回 (2/8水)】</p> <p>○ 1年間で答えが出た課題と長期的に継続して実施する事で答えが出る課題があるようです。目標が達成できなかった課題については引き続き取り組みをお願いします。</p> <p>○ 学校教育自己診断の保護者の自由記述意見が著しく増加した理由の一つは、メールマガジンの保護者登録数が全体の8割に達している事にあると思います。10割をめざし、メールマガジン等の学校と保護者とのコミュニケーションツールをさらに充実させてください。</p> <p>○ 分掌、委員会等、項目の区分を明確に分けて効果的に取り組まれています。教科書のデータ化等の社会的流れを受け、タブレット等のICTを使用する教員、生徒、そして見守る保護者の3者がICT教育についてさらに情報を共有し、理解を深めていく必要があります。</p> <p>○ 自宅外でも綺麗なトイレがある世の中で、東百舌鳥高校のトイレが綺麗とは言えない状態にある事は非常に残念です。使用する生徒の意識も気になりますので、意識を変える試みをお考え頂ければと思います。また洋式トイレに換えると汚れが少なくなりますので検討してください。</p> <p>○ 最先端のICT技術を生徒各々と向き合いながら授業に取り入れておられます。教務部が主導して、各教員が現状維持ではなく時代に合わせた柔軟性を持ち、教科どうしの横の繋がりを大切にしながら、学校全体として様々な場でICT等の議論をさらに深めてください。</p> <p>○ 学校教育自己診断で授業に関して保護者の肯定的意見が前年度より下回っている理由は、教員を見る生徒のベースラインが上がり、ICT等を使用し、生徒と向き合っているか等、授業の工夫の度合いを厳しく生徒が見て、それが保護者に伝わっている為だと思われます。生徒の現状に基づいた授業や進路指導を今まで以上に心がけ、生徒の発展度合いを数値だけではなく記述されたものも含めて提示して頂ければ分かりやすいと思います。</p>



(ア) 情報社会における正しい判断や望ましい態度、セキュリティーの知識・技術及び健康への認識といった情報モラルの育成に努めること。(イ) 校内での携帯電話原則使用禁止など、指導方針の周知の徹底や過度の依存を防止するための総合的な取り組みを行うこと。』とあるように、情報活用能力をあげるとともに、更なる「情報リテラシー」の育成が急務である。

- <保護者向けアンケート>では、学年により少しばらつきがあるが、全体的に厳しい結果になっている。1年生の「学校は教育方針を分かりやすく伝えている」では、昨年比 8 ポイントダウンの 70%、また、全学年を通して「内容が分かりやすい授業が多いようだ」では、昨年比 11 ポイントアダウンの 49%、「この学校のホームページは充実している」では、昨年比 6 ポイントダウンの 76%となっている。マイナスポイントにおいては、具体的な改善策を講じる必要がある。
- 全学年を通して、「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」では、昨年比 5 ポイントダウンの 73%となっている。学校協議会の意見でもあったように、「授業見学ツアー」のような教師引率の形態など、見直す必要がある。
- 「学校は部活動の活性化に取り組んでいる」では、昨年比 4 ポイントダウンとはいえ 70%となり、一昨年と比べると、一年生の入部率は 50%から 75%に、25 ポイントアップのV字回復を遂げている。このことは、「クラブ活性化に向けて」プロジェクトチームを立ち上げ、昨年 7 回にも及ぶ議論を重ねた結果、「クラブ活動を通して、自立・自主性を育み、高校生活をよりいっそう充実させるために、東百舌鳥高校は、クラブ活動を一生懸命頑張る生徒を応援します!」というスローガンを、教職員全員で共有し、外部に向けて発信することができたからである。
- また、「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータ・プロジェクターなどのICT機器の活用に取り組んでいる」では、(H26:77%⇒H27:87%⇒H28:83%) と高い水準を保っている。
- <教職員向けアンケート>では、「生徒指導において、家庭や諸機関との連携が出来ている」では、(H27:91%⇒H28:92%)、「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」では、(H27:94%⇒H28:95%)、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」では、(H27:98%⇒H28:96%)、「教育活動に必要な情報を積極的に収集し、Webページやメルマガなどを通して、生徒・保護者や地域への周知に努めている」では、(H27:94%⇒H28:91%) など、高水準を保っている。
- マイナスポイントとしては、「この学校では、図書館が生徒に活用されている」では、(H27:62%⇒H28:37%) と 25 ポイントダウンしている。
- 図書館利用については、「図書貸し出し出張ワゴンサービス」や「ビブリオバトル」などを通じて活性化を図っていきたい。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力・創造力・徳力を兼ね備えた、社会に有用な人材の育成	<p>(1) 学びに対する意欲の向上</p> <p>ア 仕事能力の基礎となる「学力」を鍛え、自らの人生を開拓し、社会貢献出来る人材育成</p> <p>イ 進路行事の積極的展開</p> <p>ウ 言語活動の充実</p> <p>エ 英語のコミュニケーション能力の向上</p> <p>(2) 「わかる授業」と「充実した授業」への授業改善</p> <p>ア 授業改善の推進</p> <p>イ 実践事例研修の実施</p> <p>ウ 公開研究授業の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「看護医療」専門コースでは看護医療系の上級学校への進学をめざし、看護師及び保育体験を実施する。</p> <p>・「情報デザイン」コースにおいて、21世紀型スキルの育成をめざしたタブレット等ICTの活用を推進する。</p> <p>イ・大学見学や先輩の話聞く会、模擬授業等の体験学習を充実させる。</p> <p>・進路体験学習に保護者の参加を呼びかける。</p> <p>ウ・ICT活用及び協働学習（ペアワークやグループワーク）を通して、プレゼンテーション力と相互批評できる力を高める。</p> <p>エ・英検の受験を奨励する。</p> <p>・オーストラリア語学研修を実施する。</p> <p>・校内の案内板や教室の表示板など、多言語（日・英・中・韓等）の言語で対応できるよう改善する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケート等を参考にして、各教科の課題と対応策を協議する。</p> <p>イ・校外の優れた実践事例の研修を実施する。</p> <p>ウ・授業を公開する（保護者対象・教員相互）と共に、研究授業を積極的に実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・50%以上の生徒が、看護師体験・保育体験に参加</p> <p>・タブレット等ICT活用取り組みの肯定率90%以上（H28:84%←H27:86%←H26:69%）</p> <p>イ・進路行事に対する肯定率75%以上（H28:69%←H27:71%←H26:59%）</p> <p>ウ・各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている肯定率85%以上（H28:87%←H27:80%←H26:76%）</p> <p>エ・英検受験者数100人以上</p> <p>・語学研修参加率5%以上（H28:4人←H27:7人←H26:7人）</p> <p>(2)</p> <p>ア・全教科、課題と対応策を提出</p> <p>イ・実践事例研修を年1回実施</p> <p>ウ・授業公開設定、他教員の授業見学、報告書の提出を年2回実施する。</p> <p>・授業満足度60%以上（H28:57%←H27:58%←H26:49%）</p> <p>(3)</p> <p>ア・共通理解のための研修を年2回実施</p> <p>イ・早朝、放課後、土曜、夏季、センター講習の申込者数のべ500人以上（H27:456人）</p> <p>・「マイスタディー・サポート講座」を3回開催（H27:1年17人、2年159人、計176人）</p> <p>・進路情報提供に関する肯定率85%以上（H27:82%←H26:78%）</p> <p>ウ・各学年ともに外部模試の受験奨励&lt;1年生：実力診断テスト、2年生：実力判定テスト・外部模試、3年生：実力判定テスト・外部模試（マーク式・記述式）&gt;</p> <p>・家庭学習時間の増加（学年+1時間を目標）</p>	<p>(1)ア・看護師体験には15人、理学療法士体験に1人、保育体験には24人参加。(○)</p> <p>・看護医療専門コース(38人)のべ合格者は43人、進路決定率は88%(○)</p> <p>・タブレット活用取り組みの肯定率（H28:84%←H27:86%←H26:69%）((○)</p> <p>イ・進路行事に対する肯定率（H28:69%←H27:71%←H26:59%）(○)</p> <p>ウ・パナソニック教育財団から「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」研究が特別研究指定校に選ばれiPadミニ40台を整備(◎)</p> <p>・すべての教科において、授業の「めあて」と「振り返り」導入するなど、アクティブラーニングの実践（H28:81%）(◎)</p> <p>・プロジェクターなどのICT機器の活用に取り組んでいる。（H28:84%←H27:86%←H26:69%）(◎)</p> <p>エ・英検受験者数：3級：(124人←86人)、準2級：(38人←16人)、2級：(1人←1人)、合計103人（H28:163人←H27:103人）(◎)</p> <p>・語学研修参加率5%以上（H28:4人←H27:7人←H26:7人）(○)</p> <p>(2) ア・全教科、課題と対応策を提出(◎)</p> <p>イ・実践事例研修を年5回実施(◎)</p> <p>・指導教諭による校内の初任者研修を、ほぼ毎週実施(◎)</p> <p>・教育課題について教職員で日常的によく話し合っている。（H28:77%←H27:88%←H26:69%）(○)</p> <p>ウ・授業公開を年2回行い、特に、第2回相互授業見学週間の初日7限目には、9名の教員の協力により公開研究授業及び研究協議を同時展開し、トータルプラン委員が中心になって全員参加(◎)</p> <p>・相互授業見学は、6月(47人)、11月(61人)の教員が各々実施した。(◎)</p> <p>・&lt;教員&gt;教育活動全般にわたる評価を行い、教職員でよく話し合っ次年度の計画に生かしている。（H28:66%←H27:69%←H26:58%）(○)</p> <p>・&lt;生徒&gt;授業の内容をわかりやすくするように工夫している。（H28:57%←H27:58%←H26:49%）(○)</p> <p>(3)ア・1年より高校生活支援カードの活用(○)</p> <p>・教職員の人権研修2回実施(○)</p> <p>・アンケート「安心して安全な学校生活を過ごすために」を活用した早期発見・早期対応実現(○)</p> <p>・教育相談委員会24回実施(○)</p> <p>・スクールカウンセラーによる面談を12回40人実施(◎)</p> <p>・自己診断による「各学年に応じた系統的なキャリア教育を行っている」(H28:65%←H27:68%←H26:89%)(△)</p> <p>・自己診断による「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」(H28:74%←H27:78%←H26:91%)(○)</p> <p>イ・進学講習・夏季講習は、5教科19講座、各講座2～70人が参加、のべ385人参加。(○)</p> <p>・府大生による学習サポートには1年：104人、2年180人参加。(◎)</p> <p>・自習室活用は、考査前に、各学年で実施</p> <p>・進路情報提供に関する肯定率（H28:78%←H27:82%←H26:78%）(○)</p> <p>ウ・実力診断判定テスト：全員受験、外部模試&lt;2年生：150人(←H27:86人)、3年生：166人(←H27:122人)&gt;・家庭学習時間（平日）の平均1年49分、2年19分、3年28分(△)</p>
	<p>(3) 個別指導の充実と自己学習の支援</p> <p>ア 支援の必要な生徒実態の把握</p> <p>イ 進学講習の実施と自学自習のための支援体制の整備</p> <p>ウ 外部模試利用の効果的な活用を推進する。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・高校生活支援カードを活用し、適切な指導・支援の充実を図る。</p> <p>イ・全学年を通じて講習、補習に取り組み、生徒の学力向上に努める。</p> <p>・定期考査前や長期休業中において、自学自習のため支援体制を整備する。</p> <p>・大阪府立大学ボランティアセンターと連携して「マイスタディー・サポート講座」のサポーターを依頼する。</p> <p>ウ・3年間を見通した、「進路マップ」を策定し、時期に応じた効果的な外部模試を受験させることで、ミスマッチのない進路実現を図る。</p> <p>・PTA総会や学年別保護者進路説明会等で、効果的な外部模試の活用を説明していく。</p> <p>・「学年診断サポート」を活用して、家庭学習時間の増加を図る。</p>	<p>※学校教育自己診断で授業に関して生徒・保護者の肯定的意見が前年度より下回っている理由は、教員を見る生徒のベースラインが上がり、ICT等を使用し、生徒と向き合っているか等、授業の工夫の度合いを厳しく生徒が見て、それが保護者に伝わっている為だと思われる。</p>	

<p>自主・自律・礼節を重んじる生徒の育成</p>	<p>(1)規範意識の向上 ア 通学マナーの向上 イ あいさつ運動の実施 ウ 頭髪・服装・遅刻指導の推進 エ スマホに関する指導を実施</p> <p>(2) 自主的活動ができる生徒集団の育成 ア 生徒会行事・生徒会活動・部活動の活性化 イ 「学校まるごと美術館」構想の下、生徒による演技・演奏の発表や芸術作品の発表の機会を増やすことにより、文化・芸術の振興を図る。 ウ 図書館利用・読書活動の充実を推進する。 エ 生徒による校内外の美化活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・毎朝の立ち番指導及び通学マナー指導を継続する。 イ・あいさつ運動の実施とともに、あいさつ通り(1階)を作り、挨拶を励行する。 ウ・頭髪・服装・遅刻指導を推進する。 エ・1年生に対して、「スマートフォンによる人権侵害」についての取組を推進する。 ・外部の人材派遣による人権研修の開催</p> <p>(2) ア・生徒会行事を生徒が自主的に運営する。 ・リーダー研修、ピアサポート研修の充実 ・中学生対象の学校説明会を生徒(生徒会役員・部活動部員)が運営する。 ・中学生招待「東百舌鳥杯(シュライク・カップ)」大会の実施(バスケットボール・サッカー) ・「校歌」のメロディーチャイムを導入することで帰属意識を高める。 ・全国大会出場に向けた支援 イ・部活動の発表の機会や場をつくり、生徒会が運営する。(睦月祭、及び校内展示等) ・各所に常時展示スペースを確保する。 ・新入生に入部を勧める冊子を配付する。 ウ・「第3次大阪府子ども読書活動推進計画(H28.3策定)」の趣旨を踏まえ、子どもへの読み聞かせの機会や、子どもが読みたいと思う魅力的な本と出会う機会の拡大に努め、発達段階に応じた子どもの読書環境の充実を図る。 ・ビブリオバトル(書評合戦)等の読書活動の取り組みを推進する。 エ・地域美化活動や東百舌鳥「花プロジェクト」、東百舌鳥「ピカピカ隊」を展開する。 ・校内清掃活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・通学マナー指導を1週間単位で年5回実施 イ・自己診断におけるあいさつ肯定率80%以上(H28:65%←H27:82%←H26:89%) ウ・遅刻総数前年度比10%減(H28:5347回←H27:5829回と激減←H26:9734回) エ・スマホの指導を年3回以上実施</p> <p>(2) ア・各行事後のアンケートにおける満足度85%以上(H28:80%←H27:81%←H26:83%) ・リーダー研修年4回、ピアサポート研修年10回実施 ・中学生招待「東百舌鳥杯」大会の実施 ＜男女バスケットボール(H27:16校参加)＞、＜サッカー(H27:15校23チーム参加)＞ イ・部活動の活性化に対する肯定率70%以上(H28:66%←H27:65%←H26:65%) ・新入生の部活動加入率60%以上(H28:57%←H27:54%←H26:57%) ウ・図書館来館者数の増加(H28:1749人←H27:2372人) ・生徒向け貸出冊数の増加(H28:1359冊←H27:1367冊) エ・「花プロジェクト」の参加(H28:のべ21人←H27:のべ43人) ・ピカピカ隊の参加(H27:のべ250人)</p>	<p>(1) ア・着実に年5回実施(1週間40人5回=200人) ・通学マナー指導として、学校周辺の危険箇所をスライドで映写し「可視化」することで当事者意識を醸成するとともに、道路標示を行政に依頼。(◎) ・地域の自治会長や校長からの訓話などで特別指導した結果、通学マナーの向上がみられた。(◎) イ・昨年に1階廊下を「あいさつ通り」として、張り出し看板等を設置するなど、挨拶をしやすい環境の整備。(○) ・自己診断における挨拶について(H28:65%←H27:82%←H26:89%)(△) ウ・遅刻総数(H28:4601回←H27:5829回、H26:9734回、12月末)前年度比21%減(◎) エ・「学校生活と人権に関わるアンケート」や「携帯電話と生活習慣についてのアンケート」において実態把握したうえで、各学年で「情報モラルに関する人権HR」を実施(○) ・「長期休業中の生活態度について」注意喚起 ・自己診断における「学校で命の大切さや人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」について(H28:66%←H27:63%)(○)</p> <p>(2) ア・学校祭「体育の部」「文化の部」に積極的に取り組んでいる(H28:80%←H27:81%←H26:83%)(○) ・リーダー研修年4回、ピアサポート研修年10回を着実に実施した。本部主催による「大阪ピアっ子、大集合」にも8名の生徒が参加(◎) ・宮崎県教委や、他県の2高校の視察を受け入れ、学会での発表にも取り組んだ。 ・オープンスクール実施後のアンケートによる肯定率(1回:91%、2回:92%)、中学生体験入学後のアンケートによる肯定率96%(◎) ・中学生招待東百舌鳥カップ:サッカー(2中学4チーム参加)(◎)、バスケットボール(Shrike Cup)(8中学16チーム参加)(◎) ・ダンス部・写真部が全国大会5年連続出場(◎) ・懸垂幕架枠を設置し、優秀クラブを奨励(◎) ・クラブ活性化プロジェクトチームを作り、活性化のための提案(クラブ生に対する優遇制度)を策定した(◎) イ・睦月祭(1月)開催(文系クラブ6団体出演)(○) ・芸文祭(バトン部・写真部・書道部)に参加(○) ・「学校まるごと美術館構想」にのっとり、玄関・廊下等生徒の美術・書道・写真作品を展示(◎) ・3年女子が、「高校生ICTカンファレンス2016」において、全国代表に選ばれ、内閣府・文科省・総務省・経産省・消費者庁を廻ってプレゼンを行った。(◎) ・震災ボランティア in 福島に参加し、その体験談を全校生徒の前でプレゼンを行った。(◎) ・地域の防災イベントに、生徒会執行部・吹奏楽部・ダンス有志が参加(◎) ・部活動加入率(全体 H28:57%←H27:47%←H26:53%、1年: H28:74%←H27:54%←H26:57%、2年: H28:50%←H27:41%←H26:49%、3年: H28:37%←H27:48%←H26:51%)(◎) ウ・図書館来館者数の増加(H28:1749人←H27:2372人)・生徒向け貸出冊数の増加(H28:1359冊←H27:1367冊)(△)・図書貸し出し出張ワゴンサービス(◎)・校内ビブリオバトルを実施20人の生徒が参加(◎) エ・東百舌鳥「花プロジェクト」に、2回延べ21人参加(○)・外部連携として堺市公園協会からも支援(◎)・「安全衛生委員会」を10回開催し、職場環境の改善に取り組んだ。また「学校保健会」を2回開催(◎)・口腔保健指導により表彰(◎)2回実施した。(◎)</p>
---------------------------	--	---	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ICT機器の活用</p>	<p>(1) ICT機器を活用した校務の効率化 ア ICT教育推進室の設置（新分掌として位置づけ） イ 校務支援システムのサポート、HP更新（ブログ更新）のサポート、各種トラブルの対応、機器の管理</p> <p>(2) ICT機器を活用した授業を推進 ア タブレット型PCや電子黒板等を活用 イ フューチャールームの活用 ウ 教職員のICT活用力の向上</p> <p>(3)「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」（パナソニック教育財団特別研究指定校）の調査研究を行う。 ア 多様な学習成果の評価手法に関する調査会研究を行う。</p>	<p>(1) ア・ICT教育推進室を設置することで、ICTを活用した授業の支援を行う。 イ 校務支援システムに関するサポート等を通して、各分掌や学年間の連携を円滑に行う。</p> <p>(2) ア・タブレット型PCを始めとしたICT機器を使った研究授業を行う。また、その研究成果を他校に伝える。 イ・フューチャールーム、アクティブラーニングルーム、マルチメディアルームを活用してICT活用力の向上を図る。 ・授業・特別活動・職員会議・研修報告会で利用 ウ・全ての教科において、ICT機器を活用した授業ができる環境を普通教室以外の全教室にも順次整備していく。 ・ICT活用力向上の研修会を開催する。</p> <p>(3) ア・生徒が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し、解を見出していくアクティブラーニングの充実を推奨していく。 ・アクティブラーニング等を活用した学習において、評価の妥当性・信頼性を高めるための研究を行う。 ・教育センターの「パッケージ研修Ⅱ」に申請し、主体的・協働的な学習とその評価方法について支援を仰ぐ。</p>	<p>(1) ア・ICTを活用した授業の支援を行う。 イ・各分掌や各学年間の連携に関する肯定率 55%以上（H28:48%←H27:62%←H26:48%）</p> <p>(2) ア・ICT機器を使った研究授業を年6回以上実施 ・ICT機器を使った授業での利用率 90%以上維持（H28:95%←H27:94%←H26:69%） イ・授業、職員会議、研修報告会、PTA活動等で、年50回以上利用 ウ・研修会を年2回以上開催</p> <p>(3) ア・具体的には、パフォーマンス評価やルーブリックを取り入れた評価手法を研究し、実践していく。 ・教科別毎の観点別シラバスを活用し、研究授業を2回行い、授業アンケートの平均ポイント 0.05あげる。（H28:3.04←H27:3.06←H26:3.04）</p>	<p>(1) ア・入門編、応用編に分けて、校内研修会を17回実施(◎) イ・各分掌・各学年間の連携に関する肯定率（H28:48%←H27:62%←H26:48%）(○)</p> <p>(2) ア・マルチメディア授業において、iPadミニを活用したアクティブ・ラーニング実践(◎) ・自己診断による「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」(H28:95%←H27:94%←H26:69%) (◎) イ・タブレット型PCを始めとしたICT活用および協働学習をすべての教科で実施。(◎) ・フューチャールームとして、マルチメディアルーム、アクティブラーニングルーム、LLルームを整備してICT機器を活用(◎) ウ・内部では新転任向けに、外部には府教委はじめ学校や研究会を対象に研修会を17回実施(◎) ・パナソニック教育財団による特別研究指定校を受け、事前研修会を3回実施。(◎) ・日本教育工学協会（JAET）より、学校情報化優良校に認定(◎)</p> <p>(3) ・パナソニック教育財団最終成果報告会にて全国からの92名の先生方、保護者、財団関係者、教育庁関係者等に「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価」を授業見学という形で示す事ができた。(◎) ・授業のめあてを示し、生徒同士の対話の時間を設け、「府立高校初！生徒のスマートフォンを使用」してQRコードで授業の振り返りを入力させるとい授業中の試みを17講座の公開研究授業で全国の先生方に示す事が出来た。(◎) ア・課題やICTの活用例について研修、報告会にて全教職員に示す事が出来た。(◎) ・授業工夫のアイデアは、オンラインアプリの研究や授業に入れ込むタイミング等を会議に報告することでトータル委員の間で情報共有出来た。(○) ・「府立高校初！授業でスマホ！」に係る「ガイドライン」の作成(◎) ・「QUIZZ」を活用し、英・理・社・情の教科で小テストを実施(◎) ・「Google Forms」で、授業の「振り返り」を入力し、e-ポートフォリオとして活用(◎) ・トータル会議を全教職員にオープンにする形で、授業協議を4回実施した。(◎) ・教育センターの「パッケージ研修Ⅱ」に申請し、公開研究授業を3回開催した。(◎) ・「ルーブリックによるアクティブ・ラーニングの評価」は授業中の生徒による活動（パフォーマンス）を評価する有効な方法の一つであるだけでなく、生徒のより「主体的・共働的な活動」の刺激になることが授業に実際に取り入れることで明らかになった。(◎) ・自己診断による「先生は生徒の努力を正しく判断している」(H28:82%←H27:63%←H26:59%) (◎) ・授業アンケートの平均ポイント（H28:3.04←H27:3.06←H26:3.04）(○)</p>
---	---	---	---	--

信頼される学校づくり	<p>(1) 開かれた学校づくり</p> <p>ア 学校説明会を積極的に実施し、本校の特色ある取り組みをアピールする。</p> <p>イ ブログを活用した情報を発信</p> <p>ウ 学校メールマガジン(モズマガ)の利用拡大</p> <p>(2) 地域と連携した事業の展開</p> <p>ア 「子育てひろば・東もず」との交流</p> <p>イ 堺市、地域自治会、地域中学・大学との連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア・オープンスクールや外部主催の学校説明会にも積極的に参加し、本校の特色ある取り組みをアピールする。</p> <p>イ・校長室ブログ・生徒会ブログ・部活動ブログ・図書館ブログの積極的な更新を推進する。</p> <p>ウ・各学年の様子をメールマガジン(モズマガ)として発信する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・一昨年度9月に校外へ退去した「子育てひろば・東もず」との連携を一層進める。</p> <p>イ・中区役所自治推進課のSHS(精華高・東百舌鳥高・商大堺高)なかじよまちづくりミーティングに参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「花プロジェクト」を堺市公園協会と連携して実施する。</li> <li>・地域との交流を実施し、文化の発信地としての学校の特色「サカイからセカイへ」をアピールする。</li> <li>・地域の方を対象に「デジタルカメラ講習会」を実施</li> <li>・地域の方を対象に「歴史探訪」を実施</li> <li>・毎朝の立ち番指導の際、地域の中学生にも声を掛ける。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・6月:第1回オープンスクール、(中学生297人、保護者53人、計350人)</p> <p>7月:大阪府公立高校進学フェア(173人参加、67件の相談)</p> <p>8月:旧4学区合同説明会(461人参加、30件の相談)</p> <p>9月:私学塾進学相談会(45件の相談)</p> <p>10月:中学生体験入学(中学生178人、保護者35人参加、7件の相談)</p> <p>10月:泉大津公立高校進学説明会(13件の相談)</p> <p>12月:第2回オープンスクール(中学生272人、保護者57人、4件の相談)</p> <p>イ・各ブログの更新頻度をあげる</p> <p>ウ・2週に1回の割で発信</p> <p>(2)</p> <p>ア・交流参加生徒のべ200人以上</p> <p>イ・中区安全安心まちづくり事業に貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中区民フェスタに参加</li> <li>・デジタルカメラ講習・歴史探訪の参加者を増やす。</li> <li>・フューチャールーム等の利用者数年間100人以上</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・学校案内パンフレットを「コース制」が良くわかる斬新なデザインで刷新(◎)</p> <p>イ・校長ブログは、4月以降637回余り、ほぼ毎日更新。校長以外のブログも約100回更新(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長ブログの効果により、自己診断による「この学校のホームページは充実している」は上昇した(H28:76%←H27:82%←H26:79%)(○)</li> <li>・ホームページへのアクセス数は、月に1万回。</li> </ul> <p>ウ・各学年とも2週に1回のペースで着実に発行。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断による「メールマガジンは役に立っている」(H27:91%←H26:93%)(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・H27.10より堺市の制度が変わり、「子育てサポートルーム」から「子育てひろば 東もず」に変更し校外に移設したが、引き続き、交流ができてい。のべ196名交流。(○)</p> <p>イ・中学校訪問(里帰り訪問)55名の生徒が47中学を訪問。長期休暇を利用して、1年生が各出身中学に里帰り訪問をして、本校の良さをアピールした。中学校では大歓迎され大好評だった(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「SHSなかじよ」において、女子高生の生活場面ごとにまとめた防犯啓発冊子について発表した。(○)</li> <li>・夏休みに開催された区民フェスタに参加(ダンス部、バトン部)。(○)</li> <li>・1月中区主催の成人式にダンス部参加(○)</li> <li>・3月中区区民フェスタにダンス部参加予定(○)</li> <li>・吹奏音楽部がケアハウスを慰問、校内ではクリスマスライブを開催。3年音楽選抜生が出前演奏会を実施。府大CS活動に吹奏音楽部、バトン部が参加。(○)</li> <li>・デジタル写真講習会”を年間6回実施し、参加者数合計は73名であった。12月実施の作品展では、外部より60名の入場があった。(○)</li> <li>・歴史探訪を6月に実施、デジタル写真講習も兼ね20名が参加。(○)</li> <li>・ロボット講習会を夏季休暇中を含め4回開催し、親子20組40人が参加(○)</li> <li>・フューチャールーム等の利用者数は、iPad活用研修(80名)デジタル写真作品展(60名)やPTAによるピアサポート研修(26名)等多数(◎)</li> <li>・マルチメディアルーム、アクティブラーニングルーム、LLルームの整備により、利用者数多数(◎)</li> </ul>
------------	--	--	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重する精神の育成</p>	<p>(1) 「自他敬愛」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。 ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築く「自他敬愛」の精神の育成 イ 「ピア・サポート」活動の拡大充実</p> <p>(2) 地域の課題を国際的な課題として捉えることのできる視点 ア ICT 機器を活用した問題解決能力育成の取り組みの推進 イ アクティブラーニングの評価方法の工夫</p> <p>(3) 「サカイからセカイへ」をキーワードに「国際都市・堺」の在り方についての提言をアジア諸国へ発信 ア 他者を尊重する国際理解教育への取り組みを推進 イ 「総合的な学習の時間」を用いて「Aria Studies (AS)」を実施</p>	<p>(1) 3つのエリア「歴史・街づくり」「ピア（多文化共生）・関係づくり」「伝統文化・モノづくり」を柱に、世界を知り、日本を知る。 ア・同じエリアの仲間、後輩、留学生メンター、他国の学生の出会い、交流を行い、協力し合っ て問題解決を行っていく。 ・各活動の節目において成果物を作成する。 イ・「ピア・サポート」で培った、関係づくりを生かし、多文化共生の取り組みを推進する。</p> <p>(2) 他国の学生とフィールドワークやスタディツアーを通して、国際交流協働学習を行うことにより、新しい価値観や多角的な物事の捉え方を身につける。 ア・ICT 機器を活用した他国との交流を進める。 イ・アクティブラーニングの評価方法を行うため、「e-Portfolio」システムを導入する。</p> <p>(3) 実体験から学び、身につけた知識を他者との交流により深化させ、提言をまとめていく。 ア・留学生との交流をはじめとした協働学習、スタディツアーなどの国際交流活動を通して、国際的な視点をもって成果物をまとめていく。 イ・エリアごとに、堺の街づくり、伝統文化、多文化共生の取り組みを、国際的な視点でとらえ、提言を作成する。</p>	<p>(1) ア・ポートフォリオによるチーム内での相互評価 イ・エリア合同成果交流会や提言作成</p> <p>(2) ア・P C等のICT機器を活用した授業の取り組み肯定率 90%以上 (H27:86%←H26:69%) イ・ポートフォリオによるチーム内での相互評価</p> <p>(3) ア・国際的な発表の場での発表回数を増やす。 イ・国際意識調査の結果の変化（プレポスト調査）</p>	<p>(1) ア・3年生の総合的な学習の時間において「サカイ」から「セカイ」へのテーマのもと、堺についてのブレインストーミングでグループワークを実施 (○) ・堺学を中心に調べた成果をポートフォリオに作成し、各クラスで発表。(○)</p> <p>イ・3年生「英語コミュニケーション」の授業で、「スカイプ」を活用して、中国の高校生と、リアルタイムで交流の機会を持った。異国の文化・風習の違いなどを聴き取り、班毎に発表(◎)</p> <p>(2) ア・協働学習として、iPad等のタブレット端末を活用し、ポスターセッションを行った。(◎) ・自己診断による「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」(H28:84%←H27:86%←H26:69%) (◎)</p> <p>イ・アクティブラーニングによるグループ内でのルーブリックを活用した相互評価を実施 (○) ・評価の観点をあらかじめ周知したうえで、各グループの発表について評価を行った。(○) ・パナソニック教育財団から特別研究指定校に選ばれ「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」の中間成果発表会(H27.2)には、外部から情報担当教諭を中心に50名が参加し、活発な意見交換が行われた。(◎) ・最終成果発表会(H29.1)には、府内外から92名が参加し、マスコミからも取材を受けた。(◎)</p> <p>(3) ア・2年生女子が、夏季休暇中にモンゴルを訪れ、現地での交流をはじめとした事前協働学習・交流活動を通して、堺市役所内で発表。(○) イ・2年生では、JICAの海外青年協力隊8人の出前授業を行い、各クラスで派遣国の文化・教育などを調べ、事前に壁新聞を作成(○) ・両国の教育環境を比較し、教育環境改善に生かすことができるアイデアを各々に発表(○) ・プレポスト調査では、国際な視点での意識が向上した。(○) ・3年生が「政治的教養を育む授業」で、選挙管理委員会の方に来ていただいて、18歳選挙について学ぶ(○)</p>
--	---	---	--	---